

# 写真展 「沖縄の祭祀 1978-2017」

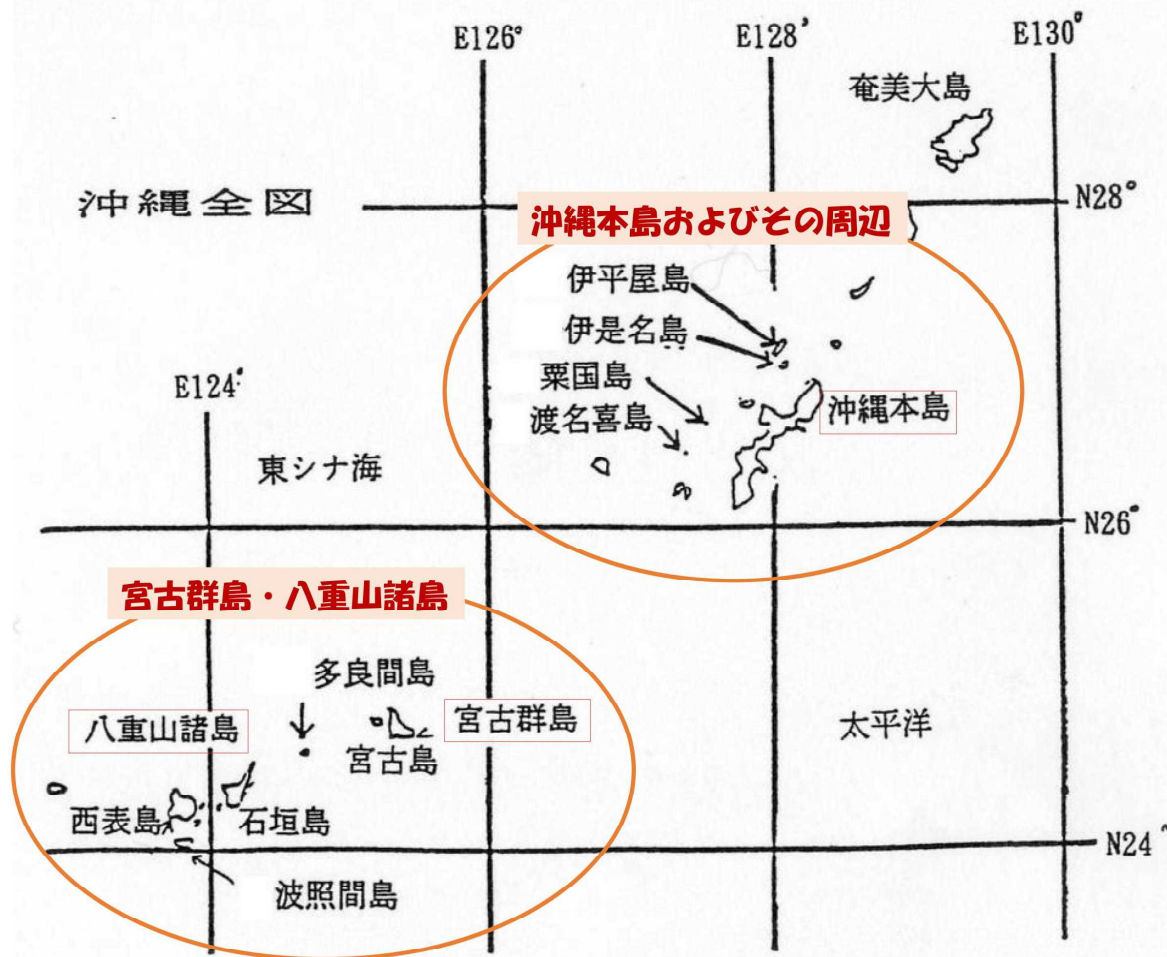
会期: 令和3年8月23日(月)～9月30日(木) 土・日・祝日休室

時間: 午前10時～午後4時

会場: 神戸女子大学古典芸能研究センター展示室

令和3年、神戸女子大学古典芸能研究センターは開設20周年を迎えました。それを記念し、今年度は一年を通じて季節ごとに、神戸市立須磨離宮公園において所蔵品を中心とした資料展を開催します。夏季(7月17日～8月1日)には、古典芸能研究センターがWeb上で公開している「沖縄祭祀資料データベース」から、沖縄のさまざまなお祭りの様子を記録した写真(追跡調査時撮影分も含む)を展示しました。

今回は、その精選版に、写真解説を添えて展示します。祭祀にともなう行われる「ミルク行列」や「獅子舞」「競漕(ハーリー)」のほか、「棒術」「シヌグ踊り(ウシデーク)」といった沖縄ならではの奉納芸能の写真もお楽しみください。



## \* 「沖縄祭祀資料データベース」について

このデータベースは、平成14年に沖縄祭祀研究会(代表 甲南大学教授〔当時〕 高阪薫氏)から寄贈された、昭和53年から平成10年までの祭祀の調査記録(写真8,500枚あまりとフィールドノートなど)にもとづいて構築されたものです。センターでは、これらの写真をすべてデジタル化した上で、フィールドノートの情報とあわせて整理をし、平成19年にこのデータベースを完成させました。収録祭祀は30種類35件に及び、地域も、北は伊平屋島、南は波照間島、西は西表島と広範囲にわたっており、それぞれの祭祀について、日程表を参照しながら写真を見ることができるようになっています。調査時の音声や映像も順次デジタル化を進め、段階的に公開しています。一方、現地での新たな追跡調査や資料収集も行い、データベースの更新・充実に努めています。

なお、現在、「沖縄祭祀資料データベース」は構成やデザインを全面的に刷新中です。作業に伴い、一部のコンテンツに不具合が生じることがありますので、ご了承ください。リニューアル公開は今秋の予定です。ご期待ください。



## 展示写真解説

### 〔沖縄本島およびその周辺〕

#### 1. 島直シ (シマノーシ)

渡名喜島で、隔年に行われる祭。旧暦の5月1日に、「ノーイガミ」と呼ばれる神送りの儀礼が行われ、その四日前から島直シの祭祀は始まる。祭祀は村にある四つの殿（拝所）で一日ずつ行われる。豊作・豊漁・航海安全・健康などを祈願する祭である。

#### 渡名喜島 島直シ① 1979年(旧暦4月29日) ニシバラ殿での退出儀礼

来訪神のギレーミチャンは二本の竹の間を通り、退出する（航海の模擬儀礼）。

#### 渡名喜島 島直シ② 1979年(旧暦5月1日) 神送りの儀礼

神女たちはノーイガミノウムイ（神送りの神歌）を唱和し、東方海上に帰っていく神との別れを惜しむ。

#### 2. イザイホー

久高島で12年に一度、午年の旧暦11月15日から四日間行われる祭。久高生まれで既婚の30歳から41歳までの女性が、おのおのの祖先の霊威を受け、神女としての資格を得るための儀式（認証儀礼）である。\*沖縄祭祀研究会が調査を行った1978年を最後に、この祭は途絶えている。

#### 久高島 イザイホー① 1978年(旧暦11月15日) ユクネーガミアシビ(夕神遊び) 七つ橋渡り

俗界と聖界を繋ぐ最初の重要な儀礼。この橋を渡り終えることで聖界での「籠り」に入るとされる。

#### 久高島 イザイホー② 1978年(旧暦11月18日) 各戸廻りに出発するナンチュ

儀式を終えて神女となったナンチュは、美しく着飾って出かける。

#### 3. シヌグ

収穫が終わり、新しい農作に移る前に行われる祭。その本質についてはまだ研究の余地が残されているが、古い時代の年越しの祭と見るのが穏当か。旧暦7月の亥の日に行われることが多い。\*沖縄祭祀データベースには、伊計島、伊是名島、伊平屋島の田名、本島の安田・備瀬・具志堅・辺名地のシヌグが収められている。

#### 伊是名島 シヌグ① 1980年(旧暦7月18日) 各戸廻り

儀式を終えて神格化した子供達は、集落の家々を裸足で駆け抜け、厄払いをする。

#### 伊是名島 シヌグ② 1980年(旧暦7月18日) 勢理客の海岸でのシヌグムイの儀礼

害虫駆除の儀式とされる。ネズミの糞包みを海に流し、子供達は海をはさんで二手に分かれ、両方から掛声を掛ける。

#### 沖縄本島具志堅 シヌグ① 1992年(旧暦7月19日) 神ハサギ(神アサギ)

沖縄本島北部に見られる、村落祭祀のための建造物。神が鎮座あるいは来訪する聖地である御嶽に対して、村落の祭祀場をいう。

#### 沖縄本島具志堅 シヌグ② 1992年(旧暦7月25日) シヌグ踊

ハサギミヤ（神ハサギの広場）で、女性のみが円陣になって音頭取りの鼓にあわせて舞う。

#### 沖縄本島辺名地 シヌグ① 1994年(旧暦7月23日) ウスレーク儀礼

アサギウルンで人々のお供えと泡盛、板香を供え、ノロは健康や商売繁盛を祈願する。

#### 沖縄本島辺名地 シヌグ② 1994年(旧暦7月23日) ウスレーク儀礼

アサギナー（アサギの広場）でノロ、クンジの女性、女ジュリガーの19名が円陣になり、左廻りに踊る。

#### 沖縄本島安田 シヌグ① 1985年(旧暦7月1日) ヤマヌブイの儀礼

太鼓を叩く者が先導して、神となった男達が山から一列になって下りてくる。その後、女達に祓いを行う。

#### 沖縄本島安田 シヌグ② 1985年(旧暦7月1日) ヤーハリコー儀礼

アサギマー（アサギの広場）で、かけ声とともに神アサギの屋根に丸太を二度激突させる。神の進水式、あるいは材木搬出の模擬とされる。

#### 沖縄本島安田 シヌグ③ 1985年(旧暦7月1日) タークサトエ儀礼

アサギマー（アサギの広場）で、田の草取りの模擬儀礼を行う。

#### 4. ウンジャミ

旧暦7月に、主に沖縄本島北部の地域で行われる祭。シヌグとならぶ来訪神（海神）を祀る行事である。シヌグと対のようにして考えられることが多い。

\*沖縄祭祀データベースには、伊平屋島の田名、本島の塩屋・安波・安田、古宇利島のウンジャミが収められている。

#### 沖縄本島塩屋 ウンジャミ① 1984年(旧暦7月25日) ハーリー船儀礼

20人乗りのゴムバーリーと40人乗りのウフバーリーが屋古のフルガンサーから塩屋のシナバまで約700メートルの距離を競い合う。

#### 沖縄本島塩屋 ウンジャミ② 1984年(旧暦7月25日) ナガレの儀礼

籠に乗った神女の行列は、ハーリー船の神女（ハーリー神）と合流してそのままナガレバマへ移動する。神女達が村を通過することによって村に霊力が授けられるとされる。

#### 伊平屋島田名 ウンジャミ① 1984年(旧暦7月17日) ナートンチビでの儀礼

ハンズナー（神女）は浜の東のアカシ（東石）という岩の上に並び、魔除けの力があるというオー（笹）を海に投げて波を鎮める。

#### 伊平屋島田名 ウンジャミ② 1984年(旧暦7月17日) 神送りの儀礼

ハンズナーは東方へ帰る神の航海の安全を祈った後、ダンジュカリユシを歌い踊る。

#### 伊平屋島田名 ウンジャミ③ 1984年(旧暦7月19日) 船漕ぎ儀礼

布で船の形を作り、海神が中に入って航海の模擬を行う。豊穰をニライカナイから受け取る儀礼とされる。

#### 伊平屋島田名 ウンジャミ④ 1985年(旧暦7月19日) 馬行列

神女たちはマジキナハンタから神送りを行うナートンチビまで、各門中の馬に乗り移動する。

#### 沖縄本島安田 ウンジャミ① 1986年(旧暦7月6日) ユートエの儀礼

追込み漁の模擬儀礼。アサギマー（アサギの広場）で、6人の男性が網を広げて待つ。男神のウミシル役がチャギ（細い棒）を持って魚役（子供9人）を追いかけ、アサギマーを右回りに三周し、四周目で網が引き上げられる。

#### 沖縄本島安田 ウンジャミ② 1986年(旧暦7月6日) ヤマシトエの儀礼

狩猟の模擬儀礼。アサギマー（アサギの広場）で猪役の男が畑を荒らす所作をし、神女とニープ神が仕留める。

#### 古宇利島 ウンジャミ① 1989年(旧暦7月18日) アシャギでの儀礼

サンナム（ノロの世話役）がヌミ（弓）と称する棒一本の先にモチを結びつけ、それを高く掲げて持つ。その餅を神人はヌミではたき落とし、神人が拾って神人一同に配る。

#### 古宇利島 ウンジャミ② 1989年(旧暦7月18日) シチャバヤーでの儀礼

シチャバヤーのスナマー（白砂で四角く区切った場所）で、ヌミトウイ神3名は神遊びを行う。

#### 沖縄本島塩屋 ウンジャミ① 1989年(旧暦7月18日) アサギでの儀礼 神ウスイ

屋古アサギで、神女たちは霊力（セジ）を身につける儀礼を行う。

#### 沖縄本島塩屋 ウンジャミ② 1989年(旧暦7月18日) ナガレバマでの儀式

イルカを突く漁の模擬儀礼。シマンホー（祭祀を担当する男性）が、ヤイを手にして海に突っ込む。

#### 伊是名島 ウンジャミ① 1980年(旧暦7月17日) 伊是名ナー遙拝

モトジマで、遠くに見える伊是名ナーへのお通し（遙拝）をする。

#### 伊是名島 ウンジャミ② 1980年(旧暦7月17日) カー拝礼

諸見・仲田のナーでのカー（井戸）への拝みを行う。作り物の弓と矢が供えられている。

### 5 ヤカンウユミ

栗国島で、旧暦の6月に三日間にわたって行われる、栗国の年中最大の祭。現在は島の繁栄祈願と村人の健康祈願・子孫繁栄を祈る祭となっているが、元々は荒ぶる神を慰撫するための祭であったと考えられる。スイミチ神という来訪神を村に迎え、五つの殿（<sup>トウン</sup>拝所）を巡ることにより、村に豊穰をいただくという。

#### 栗国島 ヤカンウユミ① 1985年(旧暦6月26日) タフララ

拝所の一つ八重大中（イビガナシー、八重の殿）広場で、来訪神（スイミチ神）と土地神（ノロ神）が謡い、踊る。

#### 栗国島 ヤカンウユミ② 1985年(旧暦6月26日) 朝フララ

土地神であるノロ神に向かい、奏詞者がウンヌキゴト（奏詞）を唱える。

### 6 サーザーウェー

古宇利島で旧暦6月に四日間にわたって行われる祭。前半二日間は豊饒感謝祭ともいわれ、後半の独特な祭祀を指す名称でもある。各戸廻り（築三年以内）や海豚捕獲漁の模擬儀礼（ピロシー）が行われる。語源も未詳。沖縄祭祀研究会では、島全体の霊力を再生するような重要な趣旨を持った祭と考えている。

#### 古宇利島 サーザーウェー① 1988年(旧暦6月26日) ユーニゲー

中央に供え物のタコが吊り下げられており、その周りを左回りに謡って踊る。

#### 古宇利島 サーザーウェー② 1988年(旧暦6月25日) ピロシー

捕獲漁の模擬儀礼。ゴザにくるまったピトゥ（海豚）を、神人が銚で仕留める。

### 7、ウブウイミ

ウイミは、旧暦日の単元をさす沖縄方言で、オリメ（折目）ともシチビー（節日）ともいう。最大のウイミをウブウイミ（大折目）といい、6月下弦の月頃の収穫感謝の神事がこれにあたる。各地でハーリー船競漕や、村を二分しての綱引きなどが行われる。ウンジャミに類する行事で、地方によって「海神祭」「稲大祭」とも言う。

#### 沖縄本島今泊 ウブウイミ① 1995年(旧暦8月24日) グシクウイミ儀礼

ノロは今帰仁城内の拝所を順に拝む。（カラウカー、<sup>なきじんさとぬしどころ</sup>今帰仁里主 所火の神、今帰仁のカナヒヤブ、ソイツギの順。）

#### 沖縄本島今泊 ウブウイミ② 1995年(旧暦8月24日) ウーニフジ儀礼

<sup>へいろう</sup>平 郎門（<sup>なきじん</sup>今帰仁城の正門）前。ノロとカネノロは地面に杖で弧を三回描き、三回おじぎをして拝む。

## 【宮古島群島・八重山諸島】

### 8、豊年祭

八重山諸島で旧暦6月に収穫儀礼として行われる祭。プーリィ。おおむね二日間で、今年の収穫への感謝と来年の豊作予祝の二部構成をとる。一日目は御嶽での祈願をする「御嶽プーリィ」、二日目は村をあげて予祝儀礼を行う「村プーリィ」である。＊沖縄祭祀資料データベースには石垣島の川平・四箇・大浜・白保、<sup>いらおもてじま</sup>西表島の祖納、宮古島の<sup>しんざと</sup>新里の豊年祭が収められている。

#### 石垣島四箇 豊年祭① 1981年(旧暦6月23日) マイツパオンでのミシャグパーシィ

謡を伴う神酒献上の儀礼。司と給仕役が対座して行われる。

#### 石垣島四箇 豊年祭② 1981年(旧暦6月23日) 村プーリ ナークスオンでの儀礼

稲の一生を模した奉納行列。

#### 石垣島大浜 豊年祭① 1982年(旧暦6月21日) オンプーリ 夜の儀礼 東節のユークイ

ユークイは健康・豊穰を祈る儀礼。オンの庭で神人・氏人全員が参加して行う。ドラと太鼓の伴奏あり。全員拝殿の方へ向かって

並び、女たちは右足を一步踏み出して両手を前に伸ばし、掌を上に向けてヒラヒラさせて何かを呼び込むような所作をする。

石垣島大浜 豊年祭② 1982年(旧暦6月22日) 村ブーリ カースンニャー(竜宮)での儀礼

全員で海に向かい東節のユークイを行う。

石垣島白保 豊年祭① 1982年(旧暦6月11日) エンヌーニゲー

豊年祈願祝典。カタバルオン前の道路でのミルク行列。

石垣島白保 豊年祭② 1982年(旧暦6月11日) エンヌーニゲー 各オンでの儀礼

巻踊り。全員で円陣をつくり、両手を上げたり広げたり、合掌したりしながら踊る

石垣島川平 豊年祭① 1986年(旧暦6月22日) 朝願い

宮島オンでの拝礼。司達がウブの中に見える。中に入れない男達はウブの前で拝礼をする。

石垣島川平 豊年祭② 1986年(旧暦6月22日) 宮島オンでのビッチュルの儀礼

拝みの後、男性がビッチュル(米俵に見立てた約60Kgの石)を担ぎ上げて広場を奇数回まわる。

西表島祖納 豊年祭② 1986年(旧暦6月23日) 棒術(棒踊り)

大綱引きが行われる前に、五穀種子奉納や棒術が披露される。

宮古島新里 豊年祭② 1993年(旧暦6月9日) 綱引き ウブザー

東西に別れて、綱引き開始。

## 9. ムシャーマ

波照間島で旧盆の期間に行われる豊年祭と盆行事が合体した祭をソーロン行事と呼び、中でも旧暦7月14日に行われる祭をムシャーマという(一連のソーロン行事を指す名称としても使われる)。14日のムシャーマでは、福運・繁栄を願って歌・踊り・獅子舞・仮装行列などが終日行われる。

波照間島 ムシャーマ① 1991年(旧暦7月14日) ムシャーマ

帰りの仮装行列。

波照間島 ムシャーマ② 1991年(旧暦7月15日) ウグリピン

アンガマ(先祖やあの世からの使者)達は、仏壇のある家々を訪れ、接待を受ける。

## 10. 結願(キツィガン)祭

八重山諸島の村々で旧暦8月ごろに行われる祭祀。豊作感謝祭。年間の祈願を占めくくって願を解くという意味もあり、文献には「結願(祭)」と漢字で表記されることが多い。1年に一度行われるほかに、数年に一度、12年に一度という村もあり、中にはこの祭祀が行われない村もある。キツィガンが特に盛大なのは、石垣島川平、小浜島などである。

石垣島川平 結願祭① 1998年(旧暦10月2日) 群星御嶽での朝参り儀礼

司はイビの中に入り拝み、その間、男性たちは外で控える。

石垣島川平 結願祭② 1998年(旧暦10月2日) 浜崎御嶽での朝参り儀礼

拝礼を終えた司は、供物を下げる。

## 11. スツウプナカ

多良間島で、旧暦4～5月の壬辰、癸巳の日に行われる祭。その年の実りの感謝と祈願を主とした祭である。男性が中心となり、祭場も御嶽ではないという点が、他の豊年祭と異なる。現在は司(司祭者)が四つの祭場を巡行していくかたちで行われるが、かつて女性は参加できなかったという。

多良間島 スツウプナカ① 1987年(旧暦6月14日) ミスペースの儀礼

新米で作ったミス(神酒)を酌み交わす儀礼で歌や所作を伴う。二日目のナガシガー祭場、司を迎えて行われる様子。

多良間島 スツウプナカ② 1987年(旧暦6月14日) 司の拝礼

二日目のパイドニ祭場。司を迎えての儀礼が行われる。

## 12. 節(シテイ)祭

西表島の祖納と干立で旧暦の8～9月に行われる。新年を迎えこの年の平安・豊穰を祈る、年中行事最大の祭。一日目のトシヌユーは大晦日に、二日目は新年にあたり、健康と豊穰を祈る神遊び儀礼(ユークイ)、ハーリー船競漕や獅子舞なども行われる。三日目は井泉ウヒラカーに対する感謝儀礼が行われる。

西表島祖納 節祭① 1990年(旧暦10月15日) ユークイ

会場となる前泊の浜に、ミルク行列に続いてアンガマ行列が入場する。黒装束の「フダミチ」を中心とした女性たちで、彼女たちは祭祀行事の中でアンガマ踊りを披露する。

西表島祖納 節祭② 1990年(旧暦10月15日) 獅子舞

船元の御座(前泊の浜)で演じられる獅子舞。ミルクや神女たちは、浜に設けられた棧敷(サンシキ)から見物する。

## 【参考展示】

変わりゆく祭祀：渡名喜島 島直シ③④2017年、沖縄本島塩屋 ウンジャミ③2011年、栗国島 ヤカンウユミ③1985年/2016年

祭りの芸能いろいろ：「エイサー」伊是名島仲田 2013年、伊是名島諸見 2013年、「組踊」伊是名島仲田 2013年

\* 沖縄祭祀研究会による調査報告書

高阪薫編『沖縄の祭祀—事例と課題—』(三弥井書店1987年)

高阪薫ほか編『沖縄祭祀の研究』(翰林書房1994年)